

# 宮崎県感染症週報

## ■ 宮崎県第34週の発生動向

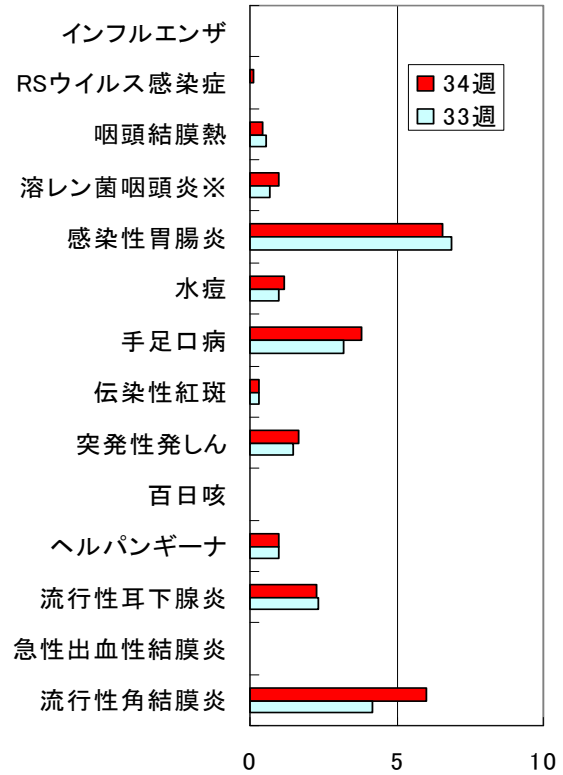
定点医療機関からの報告総数は697人(定点あたり24.4)で、前週比110%と増加した。

前週に比べ多かった主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は35人(0.97)で前週比140%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.98)と比較するとほぼ同数である。延岡(4.5)保健所からの報告が多く、年齢別では2歳から5歳で全体の約7割を占めた。全て9歳以下の報告であった。

手足口病の報告数は138人(3.8)で前週比120%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(1.3)と比較すると約2.9倍である。延岡(8.3)、日向(7.3)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## □ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
手足口病	5	3.8	延岡(8.3)、日向(7.3)	1歳~3歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.3	日向(7.8)	2歳~6歳で全体の約8割を占めた。
流行性角結膜炎	8	6	宮崎市(8.0)	20歳代~30歳代で全体の約半数を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 4 例が日南（3 例）、都城（1 例）保健所から報告された。  
 《都城保健所》・40 歳代の男性で疑似症患者。咳、痰、発熱がみられた。  
 《日南保健所》・40 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。  
 ・80 歳代の女性で疑似症患者。発熱、貧血がみられた。  
 ・90 歳代の女性で肺結核。咳、痰、呼吸困難がみられた。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 8 例が延岡（4 例）、高鍋（2 例）、日南・日向（各 1 例）保健所から報告された。  
 《延岡保健所》・5 歳の女児で腹痛、水様性下痢、血便がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT2 産生)。  
 ・7 歳の男児で水様性下痢がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT1、VT2 産生)。  
 ・8 歳の男児で腹痛、血便、発熱がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT2 産生)。  
 ・8 歳の女児で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は O157 (VT1、VT2 産生)。  
 《日南保健所》・1 歳の男児で 2 週間続く下痢、粘血便がみられた。血清型は O165 (VT2 産生)。  
 《高鍋保健所》・40 歳代の女性で腹痛、血便、軟便がみられた。原因菌の血清型は O157 (VT1、VT2 産生)。  
 ・70 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は O157 (VT1、VT2 産生)。  
 《日向保健所》・3 歳の女児で腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱がみられた。原因菌の O 血清型は不明 (VT1 産生)。
- 4 類感染症： デング熱 1 例が宮崎市保健所から報告された。フィリピンに渡航歴のある 20 歳代の女性で発熱、全身の筋肉痛、血小板減少、白血球減少がみられた。
- 5 類感染症： 報告なし。

## ■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 8 月 17 日～8 月 30 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0～4	男	8.11	発熱(37.7℃)、下痢、血便	便	8.16
<i>Salmonella</i> Corvallis(O8:z4,z23:-)	50代後半	男	8.12	発熱(37.6℃)、水様性下痢	便	8.18
<i>Salmonella</i> Derby (O4:f,g:-)	0～4	女	8.14	発熱、下痢	便	8.20
腸管出血性大腸菌(O91:HUT VT1,2)	20代後半	男	8.5	無症状	便	8.19
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0～4	女	8.10	発熱(37.5℃)、上気道炎、下気道炎(気管支炎)、下痢	便	8.22
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	60代前半	男	8.12	血便で受診	便	8.24
<i>Salmonella</i> Newport(O8(O6):eh:1,2)	60代後半	女	8.21		便	8.29
<i>Salmonella</i> Matadi (O17:k:e,u,x)	0～4	男	8.23		便	8.30
<i>Salmonella</i> Matadi (O17:k:e,u,x)	0～4	男	8.24		便	8.30

- ウイルス（平成 22 年 8 月 17 日～8 月 30 日までに分離同定）  
報告なし。

## ■ 全国第 33 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 10.4 で、前週比 99%とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は伝染性紅斑と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病であった。

伝染性紅斑の報告数は 1,005 人 (0.34) で、前週比 131%と増加した。例年同時期の約 1.7 倍である。長崎県 (1.3)、三重県 (1.2)、福岡県 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 2 歳から 6 歳で全体の約 7 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 8,123 人 (2.7) で、前週比 114%と増加した。例年同時期の約 1.1 倍である。大分県 (8.1)、宮崎県 (6.3)、福井県 (6.0) からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約半数を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 304 例
- 3 類感染症 : コレラ 1 例、細菌性赤痢 7 例、腸管出血性大腸菌感染症 194 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 3 例、つつが虫病 1 例、デング熱 9 例、日本紅斑熱 3 例、マラリア 3 例、レジオネラ症 11 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 13 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 3 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、風疹 1 例、麻しん 8 例

## 宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第34週(08月23日～08月29日)

疾病名		第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	3	4	2	2							
	定点あたり	0.08	0.11	0.20	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	20	16		6	2	6		2			
	定点あたり	0.56	0.44	0.00	1.00	0.50	2.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	25	35	9	1	18			5		1	1
	定点あたり	0.69	0.97	0.90	0.17	4.50	0.00	0.00	1.25	0.00	0.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	247	237	34	59	22	16	52	10	9	21	14
	定点あたり	6.86	6.58	3.40	9.83	5.50	5.33	17.33	2.50	9.00	5.25	14.00
水痘	報告数	35	41	16	2	10	1	4	4	1	3	
	定点あたり	0.97	1.14	1.60	0.33	2.50	0.33	1.33	1.00	1.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	115	138	27	27	33		2	18		29	2
	定点あたり	3.19	3.83	2.70	4.50	8.25	0.00	0.67	4.50	0.00	7.25	2.00
伝染性紅斑	報告数	12	12	2	7	1		2				
	定点あたり	0.33	0.33	0.20	1.17	0.25	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	54	60	16	8	11	8	6	5		5	1
	定点あたり	1.50	1.67	1.60	1.33	2.75	2.67	2.00	1.25	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	36	35	3	3	5	10	1	2		11	
	定点あたり	1.00	0.97	0.30	0.50	1.25	3.33	0.33	0.50	0.00	2.75	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	84	82	18	5	21	1		5	1	31	
	定点あたり	2.33	2.28	1.80	0.83	5.25	0.33	0.00	1.25	1.00	7.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	25	36	24	12							
	定点あたり	4.17	6.00	8.00	6.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	2										
	定点あたり	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

## ●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第34週)

2類感染症	結核	134例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	41例(8)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	デング熱	1例(1)	日本紅斑熱	3例	マラリア	2例
	レジオネラ症	1例				
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	3例	麻しん	1例		

( )内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

**腸管出血性大腸菌感染症（O-157 等）に感染しないために（8 月 23 日～29 日）**

腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。感染の原因は汚染された井戸水、生肉や野菜などの食品や食材など様々です。この菌は感染力が強く、少ない菌でも感染しますが、熱に弱いので加熱や消毒により予防することができます。井戸水を飲むときはしっかり煮沸しましょう。また、生野菜はよく洗い、肉の生食は避け十分に加熱しましょう。焼肉をする時は、肉を焼くはしやトングと、食べる時に使用するはしは区別して使いましょう。加熱の目安は食材の中心まで 75℃で 1 分以上加熱することです。

家庭内では、患者や世話をした人を介して、汚染された食事やタオルの共用等により感染が広がることもあります。嘔吐物や便を処理するときには、できるだけ使い捨ての手袋、ペーパータオルを利用し、汚物はビニールに入れて密閉し、燃えるゴミとして処理しましょう。汚れた箇所の清掃に使用したぞうきん等は、市販の台所用塩素系漂白剤を用い消毒しましょう。また、食器類は熱湯（85 度以上）で 1 分以上消毒するとよいでしょう。小さなこどもが口にくわえるおもちゃ等も忘れずに消毒しましょう。作業の後はしっかり手を洗い、消毒しましょう。

下痢や嘔吐、発熱により、体内の水分を奪われて、また、暑い時期には発汗により脱水症状を起こしやすいので、早めに十分な水分補給をしましょう。